

地域コミュニティで住みよい宮に…!!

令和
3年

宮地区

自治協議会だより

新年号

発行：宮地区自治協議会 会長：横山 春美 佐世保市城間町345（宮地区公民館内） 電話：(0956) 59-2676 印刷：株式会社九大印刷

ご挨拶

寒冷の候、皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より宮地区自治協議会の運営にご協力を賜り御礼申し上げます。

今年度も残り二ヶ月となりましたが、昨年来、世界中での新型コロナウイルスの感染拡大は、人類の脅威といっても過言ではありません。

宮地区を振り返りますと、「夏越祭り」や「町民大運動会」や「ふれあい祭り」などの諸行事を中止せざるを得ませんでした。また、7月豪雨や台風の相次ぐ襲来では、家屋の浸水や道路の冠水等の被害が発生しましたが、県や市の関係部署に対し、問題点の解決を上申しています。

さて、8月に実施しました「まちづくりアンケート」へのご協力、有難うございました。皆様から多種多様な貴重なご意見をいただきました。集計、分析結果を本紙に掲載していますが、皆様の声を今後の住み良いまちづくりに生かしたいと思えます。

宮地区は人口減少が続いていますが、宮支所前団地などの入居が始まると、若い世代の加入により、地域の活性化が見込まれます。在住者と新入居者の融和で、活気あふれる宮地区をめざしたいものです。

宮支所と公民館の長寿命化改修工事が完了し、エレベータの新設など人に優しい立派な施設に生まれ変わります。地区の交流拠点として、まさに「文化の殿堂」となります。この新しい「器」に、美しい「文化の花」を咲かせましょう。

地区の「安全安心」は最重要課題です。未だ収束が見えない新型コロナウイルスに対し、引き続きマスク着用、手洗い、三密の回避等を励行しましょう。

これからも宮地区の諸課題について、真摯に取り組んで参りますので、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

結びに、心より皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



宮地区自治協議会
会長 横山 春美

長寿命化改修工事が完了した宮支所、宮地区公民館



●正面外観



●1F 図書、展示コーナースペース

地域コミュニティとは!

地域をよくするために活動する住民や地域団体同士のつながりや集まりのことです。具体的には、イベントや行事等を宮地区の皆様で協議し、お互いに協力して取り組むことです。

令和2年度 宮地区自治協議会組織図

【宮地区自治協議会役員・部会長名簿】

役職名	氏名	関係団体役職名	役職名	氏名	関係団体役職名
会長	横山 春美	連合町内会 会長	生涯学習部会 部会長	浦 金治	体育協会 会長
副会長	野田 博志	連合町内会副会長 城間町	青少年部会 部会長	山田 直樹	青少年健全育成会 会長
副会長	長野 憲道	民生児童委員協議会 会長	保健福祉部会 部会長	長野 憲道	民生児童委員協議会 会長
理事	溝崎 文雄	瀬道町 町内会長	女性部会 部会長	中川 真理子	公民館女性部 部長
理事	名切 昭則	萩坂町 町内会長	防犯防災部会 部会長	石本 卓郎	消防第一分団 分団長
理事	橋川 文弘	奥山町 町内会長	歴史環境部会 部会長	竹原 真二	青年事業会 猪の会 会長
理事	中尾 国光	長畑町 町内会長	地域部会 部会長	長野 剛士	南風崎商工振興会 会長
理事	志和知 富男	宮津町 町内会長	事務局 長	川口 淳	自治協議会事務局
理事	重本 優治	南風崎町一区 町内会長	会 計	今富 和幸	自治協議会事務局
理事	正崎 隆弘	南風崎町二区 町内会長	開発協議会 会長	長野 孝道	市議会議員
監事	沢田 公史	宮小学校PTA 会長	宮支所 長	田中 勉	宮支所
監事	松岡 泰成	宮中学校PTA 会長	宮地区公民館長	松野 廣文	宮地区公民館

宮地区自治協議会 総会 組織構成図

〈構成員〉



〈会員〉

専門部会

生涯学習部会

- ・奥山町 町内会長
- ・体育協会
- ・老人クラブ 連合会

青少年部会

- ・宮津町 町内会長
- ・青少年 健全育成会
- ・教育会宮支部
- ・小、中学校
- ・小、中PTA

保健福祉部会

- ・南風崎町二区 町内会長
- ・民生児童委員 協議会
- ・宮共生会 わらびの里

女性部会

- ・南風崎町一区 町内会長
- ・公民館女性部
- ・交通安全母の会
- ・婦人防火クラブ
- ・宮ひまわり会

防犯防災部会

- ・長畑町町内会長
- ・消防第一分団
- ・交通安全協会 宮支部
- ・消防後援会
- ・宮駐在所
- ・佐世保地区 保護司会

歴史環境部会

- ・萩坂町町内会長
- ・無窮洞 顕彰保存会
- ・青年事業会 「猪の会」
- ・環境を考える サークル宮

地域部会

- ・瀬道町町内会長
- ・南風崎商工振興会
- ・JA南部中央支店
- ・南部漁協 宮支部
- ・宮簡易水道組合
- ・南風崎郵便局

地区住民

令和2年度 専門部会事業

令和2年度の自治協議会の事業は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、やむを得ず中止したり内容を変更したりの活動となっています。

5月開催の、自治協議会をはじめとする五団体総会は、各団体会員が集まる総会形式をやめ、書面表決にて承認を頂き、年間活動内容を決定しました。

例年開催している「町内対抗球技大会」「宮地区町民大運動会」「宮ふれあい祭り」「三世代交流グランドゴルフ大会」「高齢者卓球大会」等の参加者が多い行事や、「高齢者学級」「成人学級」「女性学級」「婦人防火クラブ講習会」など屋内で行う講習会、リーダー研修旅行なども中止となりました。専門部会事業として開催できた事業のみ紹介します。

保健福祉部会

宮村川
遊歩道清掃活動
6月5日(金)



開発協議会のメンバー(連合町内会、民児協等)により、遊歩道土手の草払い及び花壇の雑草除去、清掃を行いました。

青少年部会

地区内危険箇所
清掃及び点検
7月19日(日)



青少年部会が主体となり、地区内の池、堤等の「立ち入り禁止」「遊泳禁止」の看板や救命浮輪の点検、危険箇所の把握と草払い等を行いました。

歴史環境部会

青年事業会「猪の会」
8月2日(日)



史跡等清掃地域貢献活動として、歴史ある宮地区史跡の草刈や保守点検等を「猪の会」会員が毎年行っています。

生涯学習部会 歴史環境部会

三世代交流講座
地域貢献学習
10月19日(月)



中学1年生の地域貢献学習の一環として、宮地区公民館長 松野廣文様に戦国時代末期の地域史跡学習を、その後史跡清掃作業を行い、戦いや史跡を初めて知る生徒が殆どで、益々郷土愛が生まれたと思います。

青少年部会

佐世保市教育会
宮支部
11月8日(日)



宮地区体育館周辺や宇都宮神社境内の剪定、草払い、落葉等の清掃活動を実施しました。環境美化の為今後も続ける予定です。

地域部会

宮村川遊歩道菊満開
11月10日(火) 撮影



公民館横の遊歩道と、今年初めて地区体育館敷地に、城間町老人会の皆さんが丹精込めて育てられました。今年も色とりどりの丸い「てぼ(ざる)菊」が美しく咲き乱れました。

女性部会

宮ひまわり会
11月14日(土)



今年はコロナ禍で食事会開催が出来ず苦慮し、一人住まいのお年寄りの方に手作りのマスクと饅頭を配布しました。コロナに負けないように願いを込めて。

青少年部会

夜間補導パトロール



青少年部会が中心となり、毎月第2,4土曜日の21時~22時に宮地区内要所の夜間補導パトロールを実施し、子ども達の非行防止に努めています。



これからの予定

保健福祉部会講演会「宮地区の歴史について」3月5日(金)

宮地区まちづくりアンケート実施

宮地区自治協議会では、少子高齢化が進む宮地区で暮らす皆さんから、日頃思っていることや意見をお聞きし、宮地区をよりよい住みやすいまちにするために、中学生以上全員を対象としたアンケートを実施しました。

アンケートの全配布数は、2,318通、回収は2,128通(白紙回答71通を含みます)で91.8%の高回収率となりました。アンケートの配布・回収にご協力頂いた各町内会の役員の皆様、アンケートに回答頂いた住民の皆様、ご協力大変ありがとうございました。

【アンケートの集計・まとめ】

(1) アンケートの結果は、できるだけ目で見えてわかりやすいように、棒グラフや円グラフにまとめました。

(2) 問いに対しては、アンケートの結果から見えてくる傾向や課題のポイントがわかるようにしています。

(3) 自由記入のご意見やご提案もたくさん頂きました。多種多様の中身となっておりますが、主な項目は下記のようになっています。

(行事について)

- ・町民運動会、各種スポーツ大会、夏越祭り、宮ふれあい祭りなどの開催や内容について
- ・各種行事のお世話係や運営方法について
- ・参加者の高齢化や少子化について

(町内会について)

- ・町内会の運営や会費について
- ・町内会の役員やお世話係について
- ・町内会の草刈りやゴミの分別など具体的活動について
- ・町内の道路事情や公園などについて

(今回のアンケートについて)

- ・アンケートの内容や項目について
- ・アンケートの集計やまとめ方について

(その他)

- ・公共交通機関について
- ・簡易水道について
- ・インターネット環境について

(4) 今回のアンケートにより見えてきた課題および皆様のご意見やご提案などについては、自治協議会と行政や各団体などと協議検討の上、住みやすいまちづくりに生かしていきます。

宮地区 まちづくりアンケート

～皆さんの声をお聞かせください～ 集計結果、分析・考察

※ 集計数は提出していただいたアンケートを基にしていますので、人口等は実数とは異なっています。

アンケート回答者総数 2,057人（うち、年代無記入者数10人）

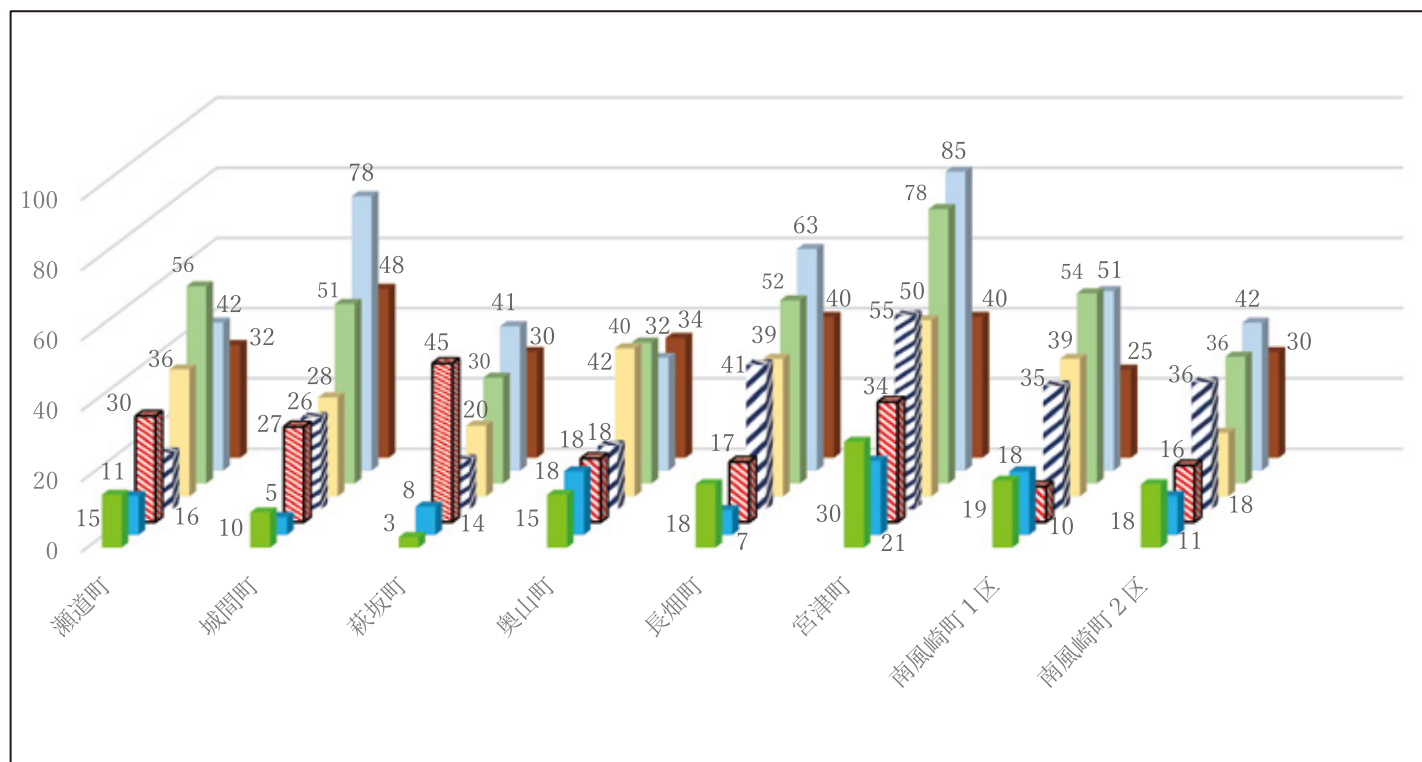
※ 町別人数は、住所による集計ではなく、町内会別の集計となっています。

※ 世代別の10代の人数は、中学生以上による集計数となっています。

※ 性別を記載されていない回答が38%もあったので、男女別の状況分析はできませんでした。

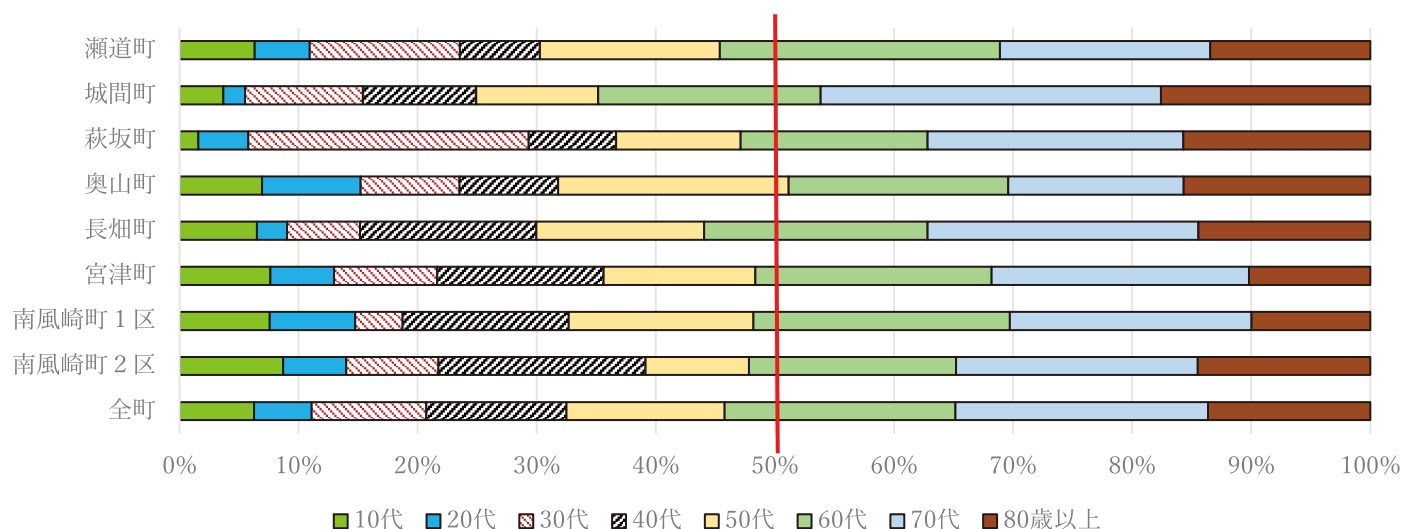
【1】町別・年代別人口構成】

町別・世代別人数



■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80歳以上

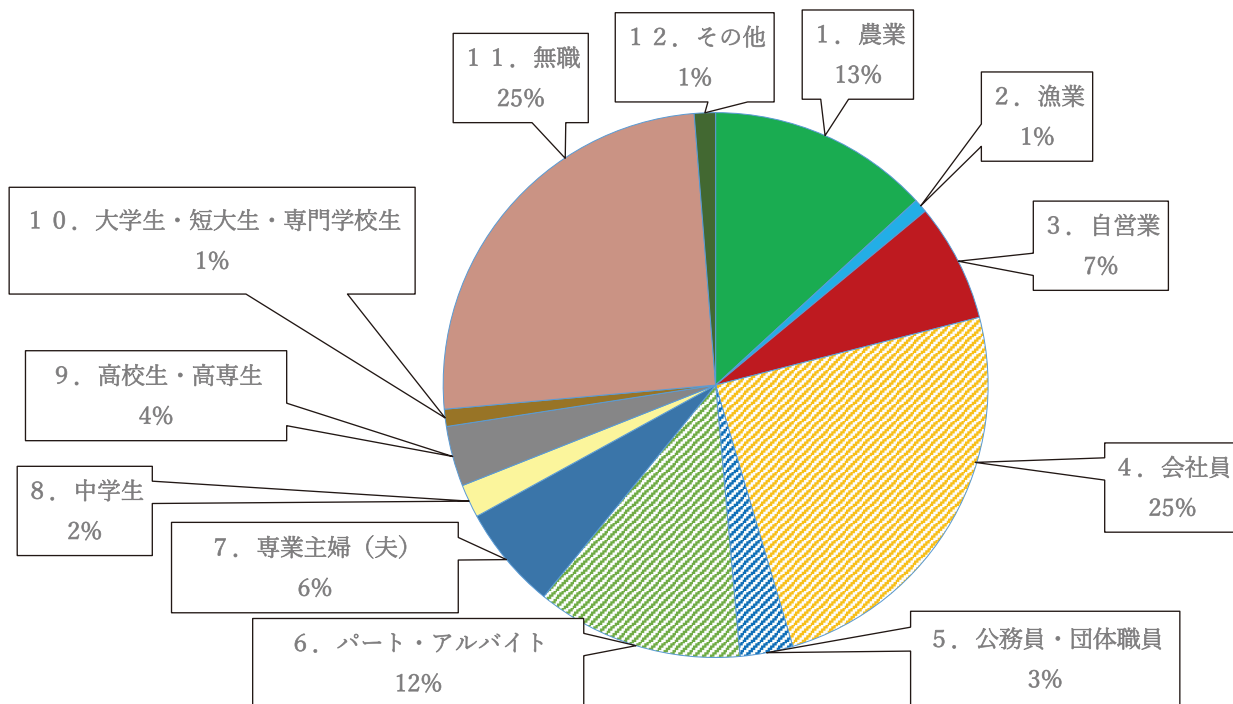
町別・年代別人数割合



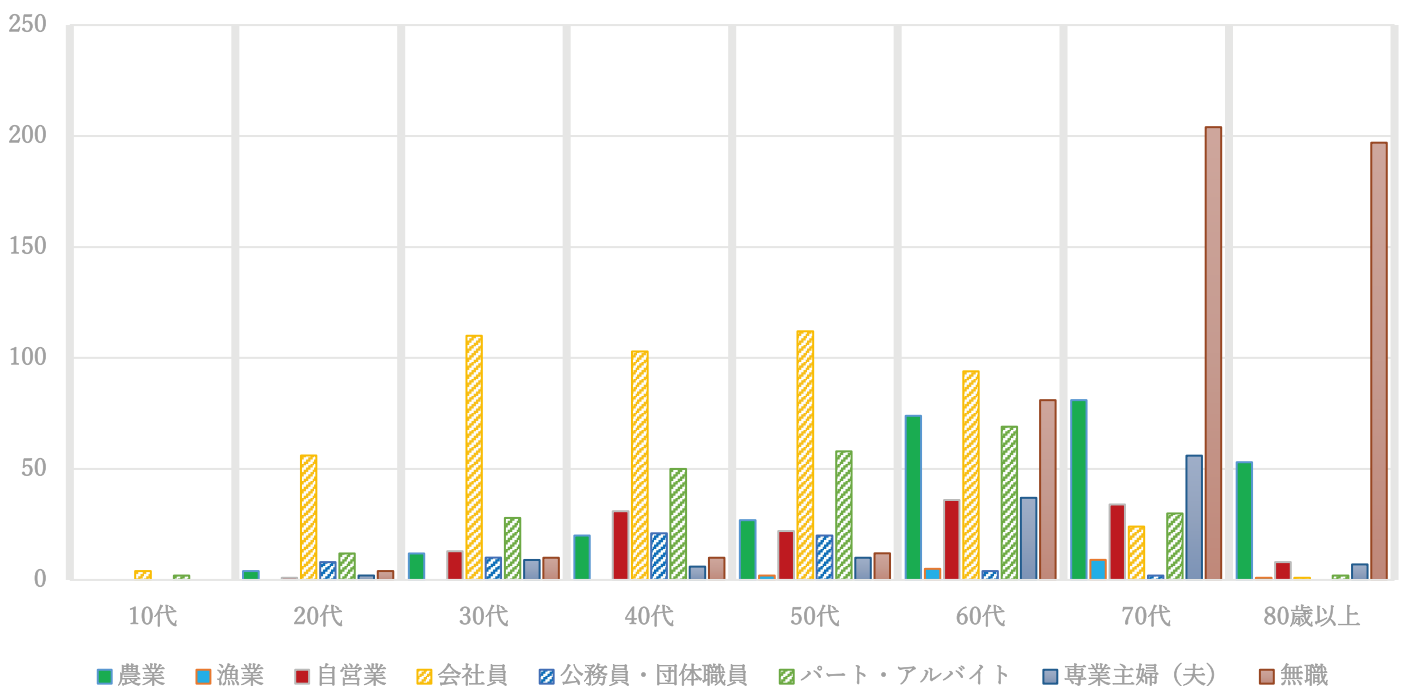
■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 ■ 80歳以上

- アンケートでの回答年齢が年代単位であったため、高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の占める割合）を算出することはできませんが、平成27年実施の国勢調査を基にした宮地区の高齢化率は35.7%で、全国27.3%、県29.6%、市28.7%を大きく超えていました。なかでも萩坂町は、50.6%と非常に高い数値を示していました。しかし、その後の住宅開発により萩坂町町内会には新たに25世帯が加入し、30代を最も多く擁する地区となり、今後の人口増も大いに期待できます。
- また、30代、40代が少ない奥山町も、新しく開発される新住宅を町内会に含めることにより、同様に人口の増加が期待できますが、20代、30代が少ない町は状況がより厳しくなることが予測されます。
- 今年度実施された国勢調査の集計データを基に、最新の高齢化率が算出されることとなりますが、少子高齢化が更に進んでいるのは間違いなく、それに伴う諸問題もより深刻さを増すことになり、中・長期展望を持った対策が必要となります。

【2】職業・学生等について

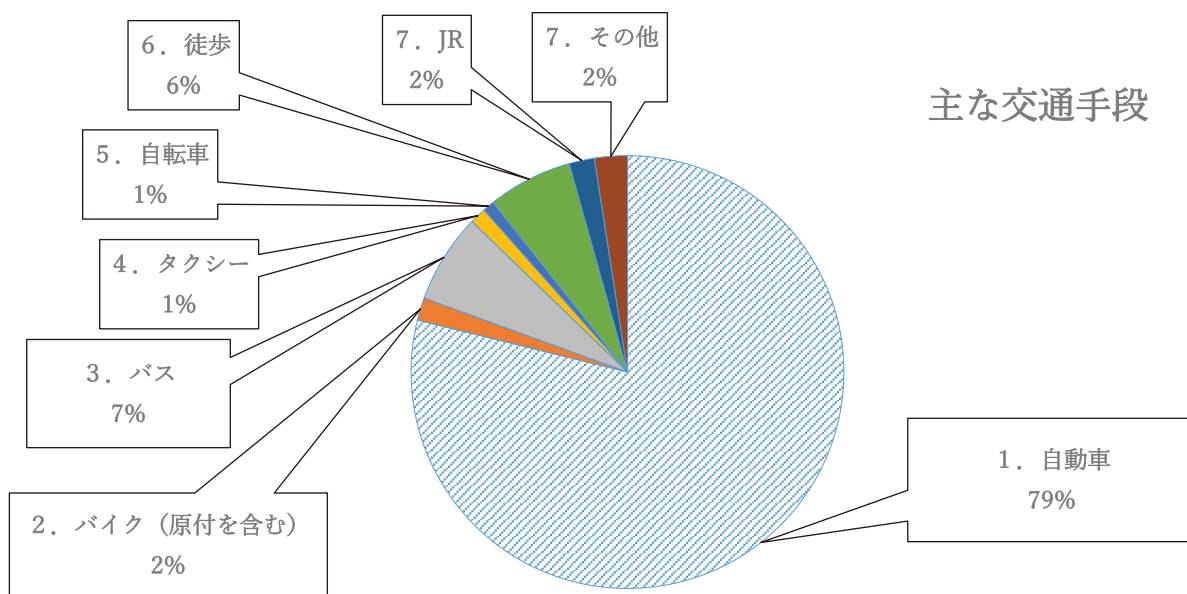


業種別・年代別就業者数

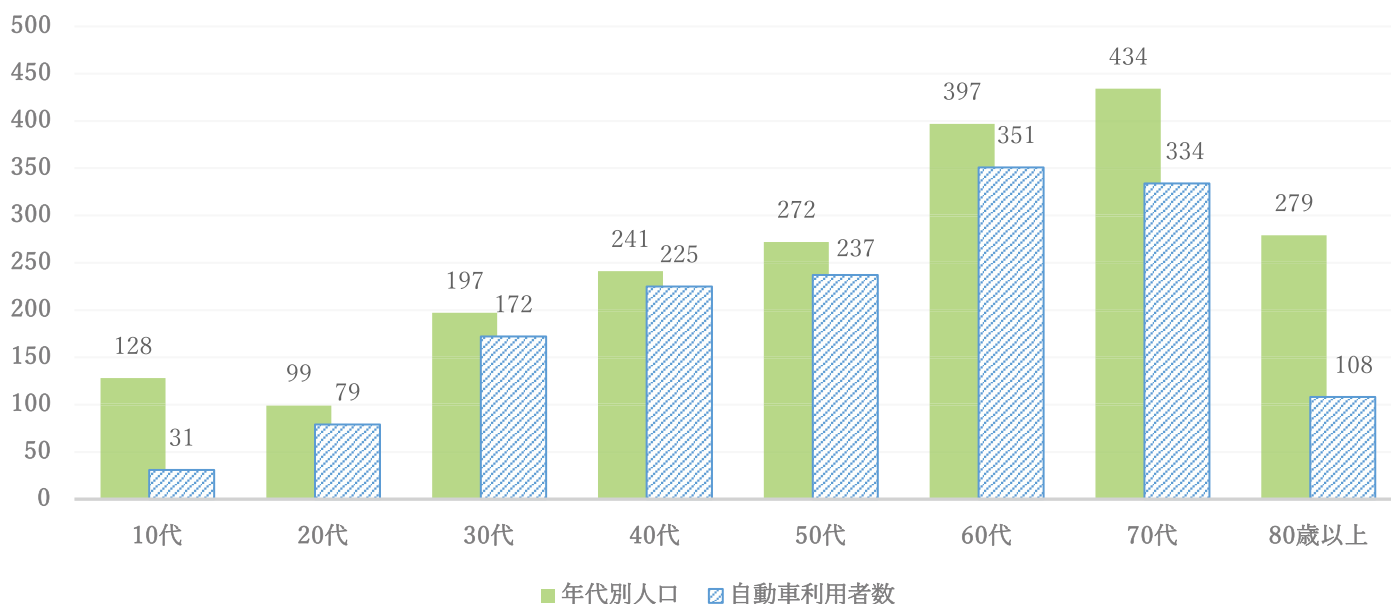


- 高齢化率が高いこともあり、無職が全体の25%を占めています。高齢者が安心して暮らすことができるまちづくりは、今後のまちづくりの一つの大きな柱となります。
- 地域の行事や活動の参加に都合がつきにくい、会社員、公務員・団体職員、パート・アルバイトの、いわゆる「勤め人」の合計が40%となっています。そのため地域での活動等においては、曜日、時間帯、頻度、役割などをより考慮していく必要があると思われます。
- 年代別就業者については、50代以下の農業従事者の急激な減少が特に目立ちます。漁業も含めて、後継者の育成と産業基盤の整備が今後の大きな課題となってきます。

【3】使用交通機関について



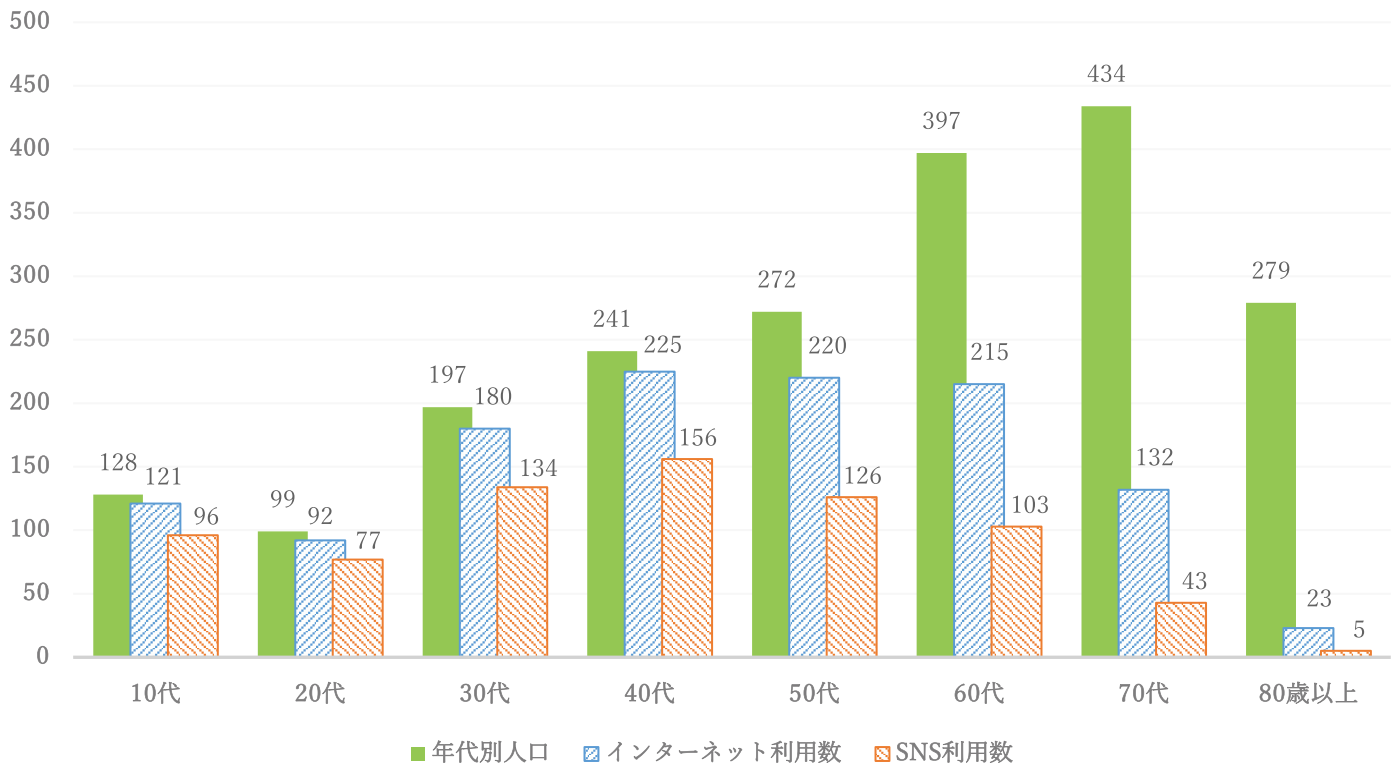
年代別自動車利用者数



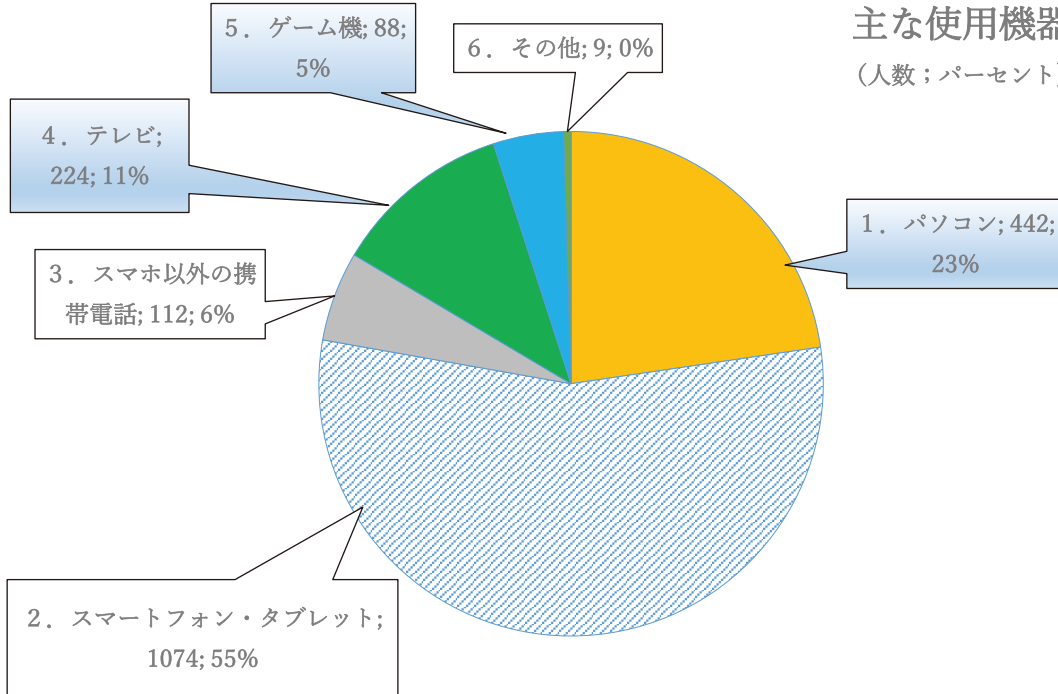
- 宮地区は2つのバス路線が通っていますが、ともに便数が少なく、JRの駅も2つあるものの地区の西側に偏在しているため、公共交通機関の利用が非常に不便な状況にあります。そのために、約80%が自動車を主な交通手段として利用しています。
- 80歳を超えると免許返納等も進み自動車利用者数も40%程度になりますが、代替交通機関がないため、高齢者ドライバー、コミュニティバス、乗り合いタクシー等、交通手段に関することは地区全体の大きな課題となっています。

【4】インターネット利用について

インターネット利用

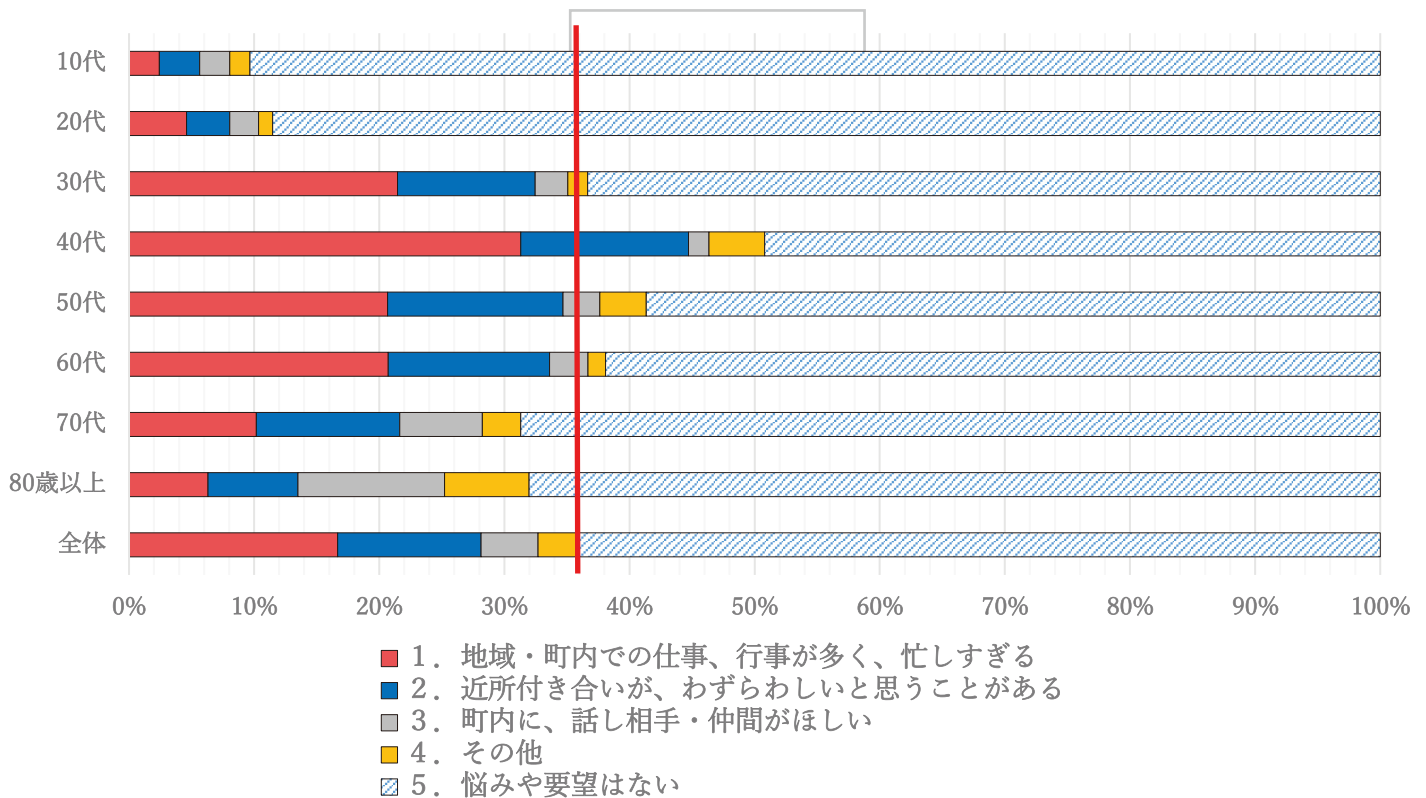


主な使用機器
(人数；パーセント)



- インターネット利用率は40代以下では90%を超え、50代でも約80%が利用しています。60代で約55%となりますが、利用率は今後更に高くなることは間違いありません。
- インターネット利用者のうち SNS を利用している人は、40代以下では70%を超えていますが、50・60代では50%前後となっています。
- インターネット利用者の主な使用機器は、スマートフォン、タブレットが最も多く55%となっています。また、パソコン、テレビ、ゲーム機の合計は40%となっており、有線接続での利用については、光回線の導入・整備に関する要望が自由記述の中でも多く寄せられています。

【5】近所付き合いについて

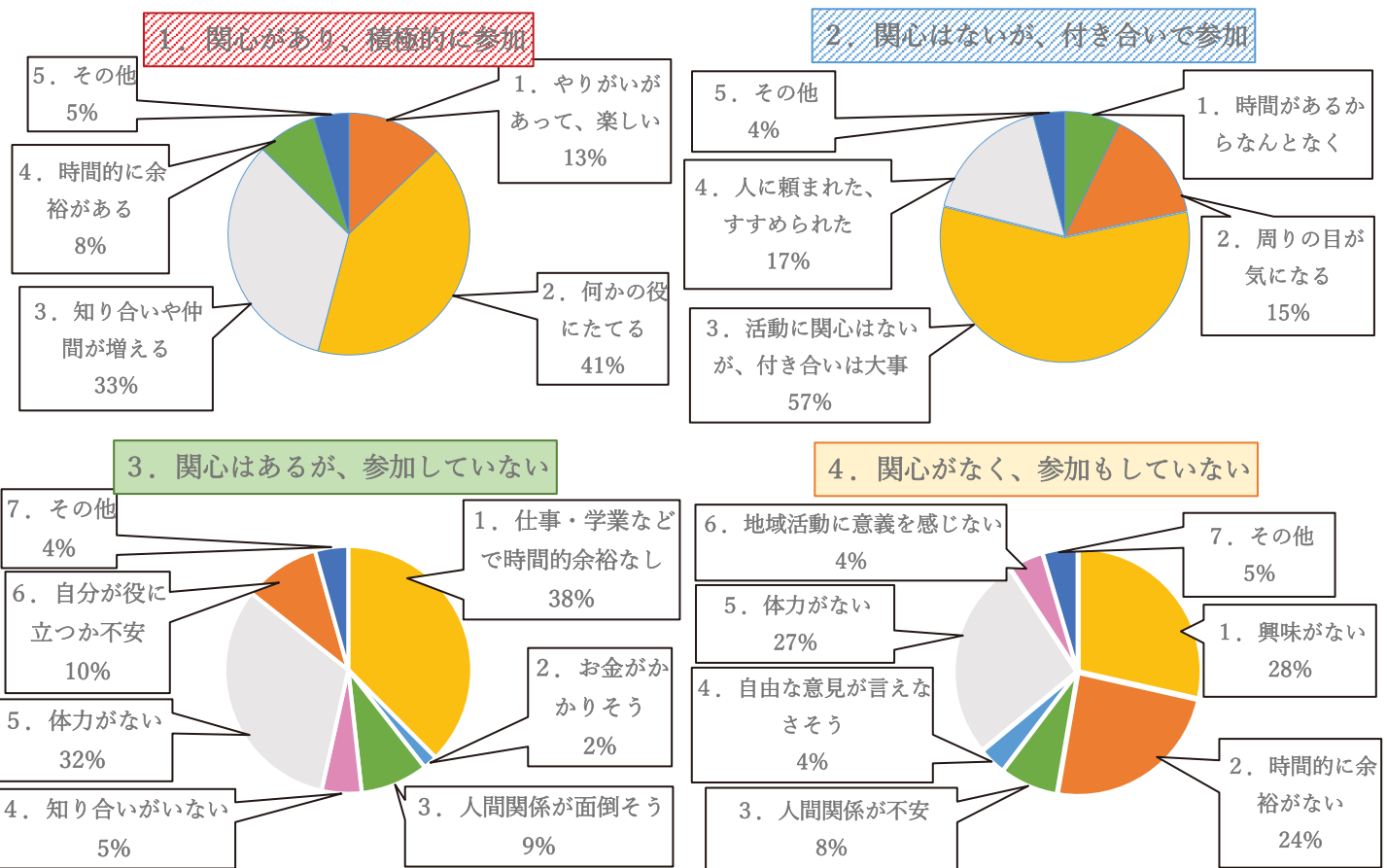
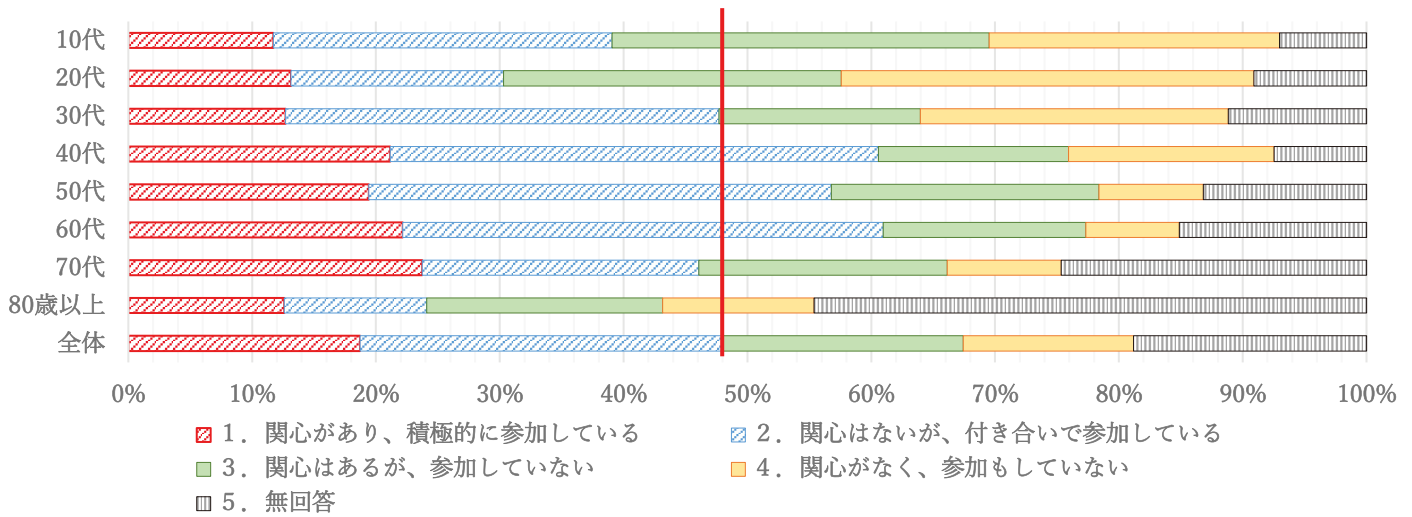


- 全体では、3人中2人は近所付き合いにおいて、特に「悩みや要望はない」という状況にあります。
- 近所付き合いの主体ではない10代、20代は、10人中9人が「悩みや要望はない」と回答していますが、30代以上になると「あり」の割合が急激に増え、40代は2人中1人が「あり」となっています。
- 30代から70代においては、「近所付き合いが、わずらわしいと思うことがある」の回答は10～14%とほぼ一定の割合になっていますが、「仕事・行事が多く、忙しすぎる」の回答は年代によって約10%の開きがあり、「悩み・要望」の年代別総数・割合の大小に関わる大きな要因となっています。この部分を解決することが、近所付き合いを円滑に進めるために必要な第一の手立てと考えられます。
- 80歳以上になると、「町内に、話し相手・仲間がほしい」という回答が増え、10人に1人が孤立感・孤独感を感じておられるようです。

【近所付き合いについての悩みや要望】※その他に記載されたものをいくつかご紹介します。

- ・ 町内の仕事をしている人が、忙しそうに見える。〔30代〕
- ・ 役員を減らしてもいいのではないのでしょうか。婦人部など、ほとんど活動していない。高齢者が増えているので、若者に役員を…などと言われても学校や部活（送迎など）で忙しいので困る。〔40代〕
- ・ ネコのフン（野良ネコが多い、エサをやるから居着いてしまう。）〔50代〕
- ・ 役員、担当が回ってきやすく、当たると忙しい。仕事をしていると、調整が難しくなる。〔50代〕
- ・ 回覧板の回数が多くて煩わしい。月1回にまとめてほしい。親の介護や仕事で残業が多く、帰宅が遅いのに、何度も入っていると、次へ回す手間がかかり、大変な思いをしています。〔60代〕
- ・ 環境の改善。荒地や廃屋。〔60代〕
- ・ 地域親睦は必要だが、高齢化地区の回数や内容等は他の地域を参考にしてほしい。〔70代〕
- ・ 行事が忙しいとまではいかないが、不要だと思うことはある。特に行事の後の打ち上げなど。〔70代〕
- ・ 現在コロナで無理だが、町民がだれでも参加できるイベント等を開催し、コミュニケーションを深める。公民館の活用。〔70代〕
- ・ 地域・町内での仕事・行事に関して、老人に対する配慮が欠ける。〔80歳以上〕
- ・ デイサービスに出席している。腰痛のため、出かけるのが厭になり困っています。〔80歳以上〕

【6】地域活動への関心と参加

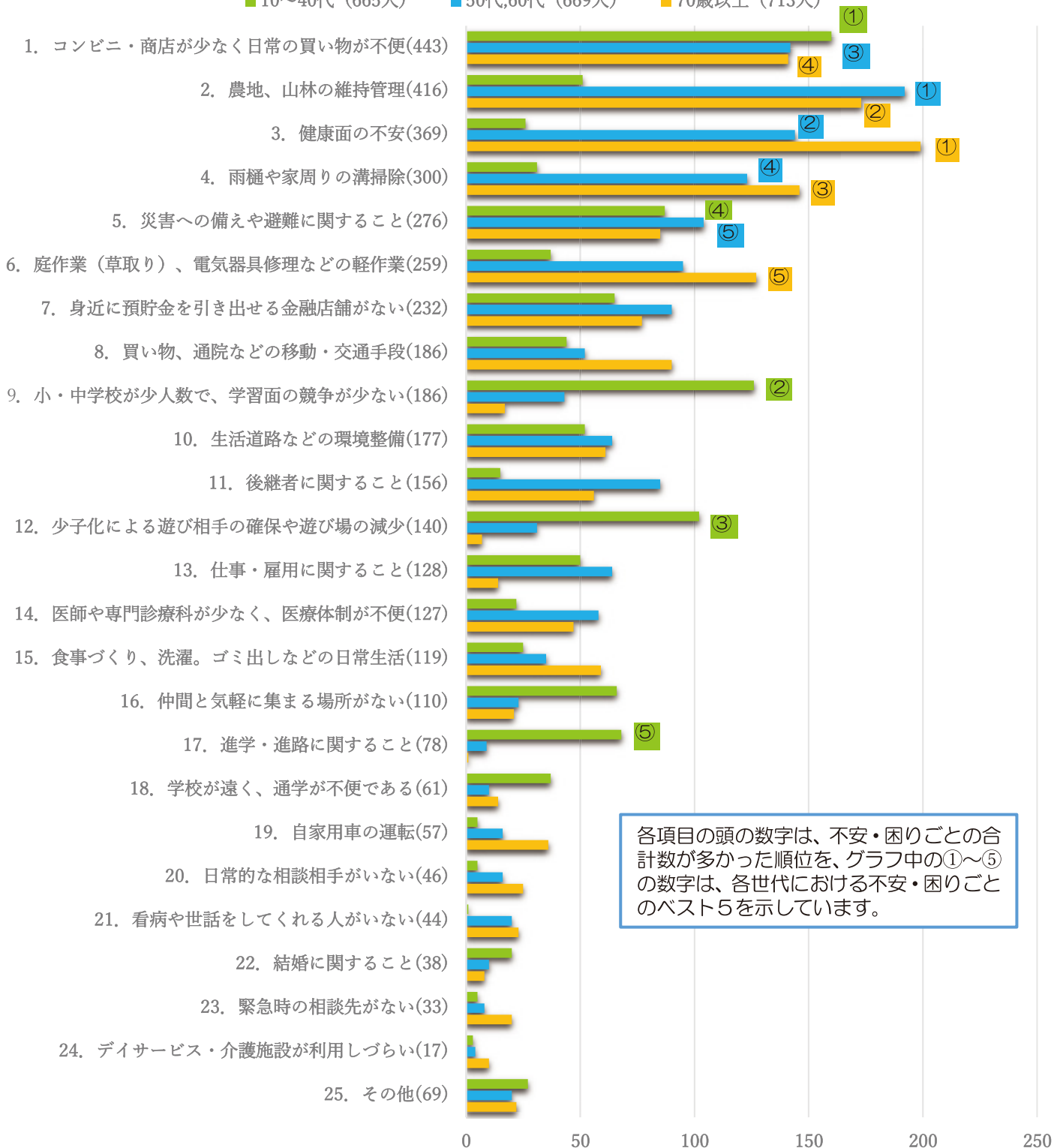


- 多くの無回答があったのは、記入要領が分かりにくかったことに原因があるのではと反省しております。
- 関心がある、なしにかかわらず地域活動に参加している割合は全世代平均で48%となっており、地域住民の半数は、地域活動にかかわりをもっていることが示されています。
- 20代は人数も少なく、地域活動への参加割合も30%と圧倒的に低く、今後の見通しは厳しいようです。
- 実質的に地域活動の中核を担っている30代から60代の「付き合いで参加」の割合は、「積極的に参加」の倍になっています。「付き合いは大事」、「人に頼まれた、すすめられた」、「周りの目が気になる」ということでがんばっているグループであり、「役に立てる」、「仲間が増える」、「やりがい、楽しさ」が実感できるよう周りからの働きかけが大切になってきます。また、前項【5】において最も「地域・町内での仕事・行事が多く、忙しすぎる」と感じている年代でもあり、その負担感を軽減する方策を進めていくことも重要です。
- 70代、80歳以上になると、地域活動への参加率が落ちてきていますが、そのほとんどは「体力がない」が理由となっています。これを、次世代の「関心はあるが時間的余裕がなく参加できない」のグループへいかにスムーズに代替わりさせていくかがポイントになってきます。

【7】日常生活の中で不安に思うこと・困っていること

〔回答者数がほぼ同じになるように、三世代に区分しました〕

■ 10～40代 (665人) ■ 50代,60代 (669人) ■ 70歳以上 (713人)

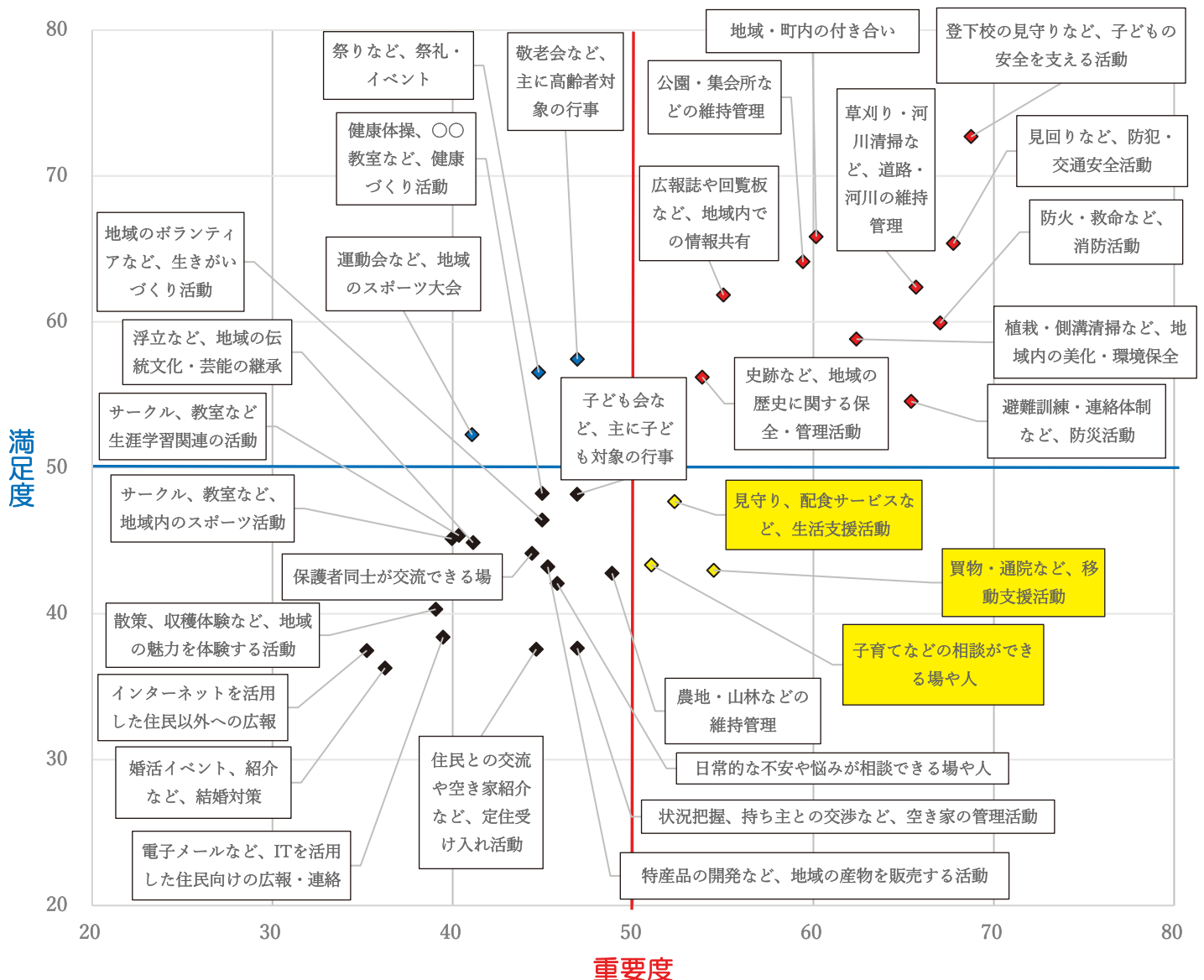


○ 合計数が最も多かったのが「コンビニ・商店が少なく日常の買い物が不便（443）」で、40代以下の世代でも1位です。自動車で10～15分程度の広田・早岐地区には多くの商業施設が建ち並び、多数の方が利用しているものと思われますが、逆に自動車を利用できなければ非常に不便ということであり、特に70歳以上の世代にとっては年を追うごとに切実な問題となってきます。関連項目としては、「身近に預貯金を引き出せる金融店舗がない（7位 232）」、「買い物、通院などの移動・交通手段（8位 186）」、「自家用車の運転（19位 57）」が挙げられます。関連4項目の総計は、（918）と圧倒的に高い数値を示しています。

○ 2番目に多かったのが、「農地、山林の維持管理（416）」でした。50、60代の1位、70歳以上の2位でもありますが、高齢化が加速度的に進行する中、11位の「後継者に関すること（156）」も相まって、所有している農地・山林の維持管理が今後さらに難しくなっていくことが危惧されます。

- 3番目に多かったのが、70歳以上で1位、50、60代で2位となっている「健康面の不安(369)」です。これは年齢を重ねるごとに不可避免的に高まるものでもあります。関連項目として考えられる「医師や専門診療科が少なく、医療体制が不便(14位 127)」、「看病や世話をしてくれる人がいない(21位 44)」、「デイサービス・介護施設が利用しづらい(24位 17)」は低い数値にとどまっており、環境面では比較的良好な状態が保たれているように見られます。
- 4番目の「雨樋や家周りの溝掃除(300)」は、50、60代(4位)、70歳以上(3位)に多く、できていたことが少しずつ難しくなっているということであり、関連項目には「庭作業(草取り)、電気器具修理などの軽作業(6位 259)」、「食事作り、洗濯、ゴミ出しなどの日常生活(15位 119)」があります。
- 5番目は「災害への備えや避難に関すること(276)」ですが、これは40代以下で4位、50、60代で5位、70歳以上でも7位に挙げられており、全世代共通の不安として挙げられています。特に今現在、現時点では、地区内には広範囲にわたって浸水想定区域、土砂災害警戒区域があるにもかかわらず、万全な体制を整えた拠点となるような避難所もなく、大雨・洪水・台風等の災害に対しては脆弱な面があり、不安を抱えている状況にあります。防災を第一に考えた「安心・安全なまちづくり」は喫緊の課題となっています。
- 40代以下は、養育される当事者と子育て現役世代を中心に構成されており、多世代と異なり「小・中学校が少人数で、学習面の競争が少ない(2位)」、「少子化による遊び相手の確保や遊び場の減少(3位)」、「進学、進路に関すること(5位)」と子育てや教育に関する悩みが上位に挙がっています。3項目の総計は404で、子育て及び教育の環境を整えることは、地域活性化の大きな柱であると言えます。

【8】地域・町内会で実施している活動・事業に対する満足度・重要度



【◆ で示されている項目】 **重要度、満足度が共に高い**領域 全32項目中10項目

- 最も高い数値を挙げたのは「登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動」で、「子どもの安全を支える」ことを最も重要な活動としてとらえ、幅広い協力体制と日々の実践により導き出された結果と言えます。
- 重要度の視点から見ると、「防犯、防火、防災」活動が挙げられており、各関係機関・関連団体の対応・連携・協力により一定の満足度も得ていますが、啓発活動や訓練により更にその意識を高めることが肝要です。
- 満足度の視点から見ると、「地域・町内のつきあい」、「公園・集会所などの維持管理」、「道路・河川の維持管理」、「地域内での情報共有」、「地域内の美化・環境保全」という地域共同体の生活環境が挙げられています。先輩諸氏がこれまでの積み重ねてこられたご努力により概ね満足という結果が出ていますが、今回のアンケートの回答には新たな意見・要望も多く出されており、更なる改善が望まれています。
- 「史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動」も、無窮洞顕彰保存会の皆様を始めとする郷土の歴史を愛する方々のご尽力により良い評価が出ています。今後も地域全体で守り、伝えていかなければなりません。

【◆ で示されている項目】 **重要度は低い**が、**満足度は高い**領域 3項目

- 「敬老会など、主に高齢者対象の行事」、「祭りなど、祭礼・イベント」、「運動会など、地域のスポーツ大会」と、地域の行事に関する項目が入っています。重要度が低いということは、生活環境の整備等と比較すると地域活動では+α的な位置づけになっているものと考えられます。しかしながら満足度が高いということは、これまで地域で育まれ守り続けられてきた伝統として誇れるものであり、地域の結束力を高め、世代間交流を深める有効な手段として広く認知され活用されてきた結果だと考えられます。
- ところが、少子高齢化、就業形態・家族形態及び生活様式の変化、価値観の多様化等により、従来通りの形の行事・祭礼の開催・存続が難しくなっているのも事実であり、幅広く意見を聴取し課題解決の方策を導き出していかなければなりません。

【◆ で示されている項目】 **重要度、満足度が共に低い**領域 16項目

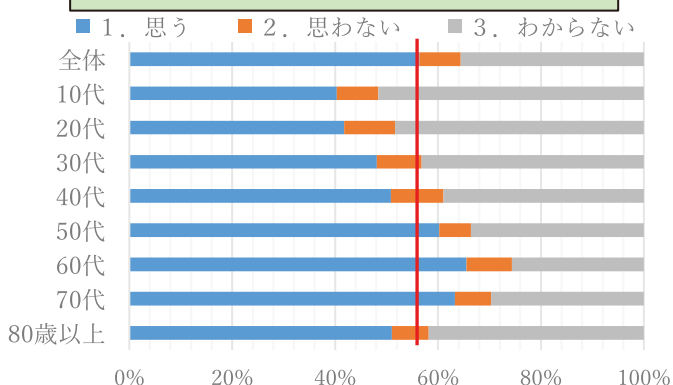
- 共に低い領域であり、早急な対応策が求められるものではありませんが、最も低い数値の「結婚対策」や「ITを活用した住民向けの広報・連絡」も、今後、その必要性が高まっていくものと思われます。
- また、「農地・山林などの維持管理」や「空き家の管理活動」などは、重要度が低いというよりも、地区住民全体の中での認知度が低いという面も考えられ、今後、重要度はより高くなる項目と考えられます。

【◆ で示されている項目】 **重要度は高い**が、**満足度が低い**領域 3項目

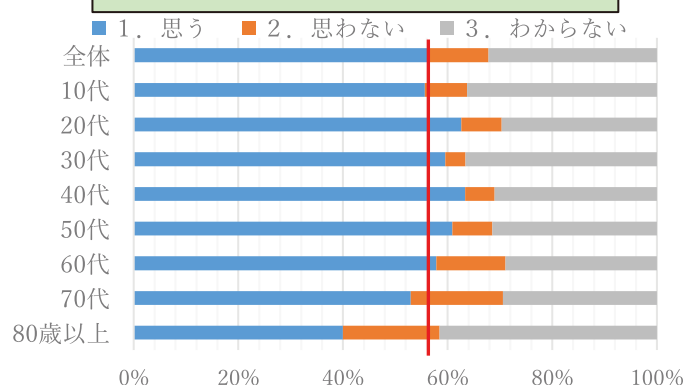
- この領域に入っている項目が、自治協議会としてより満足度を高めるための方策を優先的に定めなければならないものとなります。「移動支援活動」、「生活支援活動」、「子育てなどの相談ができる場や人」、それぞれ難しい課題ではありますが、しっかり支えていくための体制を構築していく必要があります。
- 実態の調査・検証、行政からの財政的支援、公的機関・民間サービスの活用、支援するための人材の確保・育成などをより具体的に詰めて行かなければなりません。

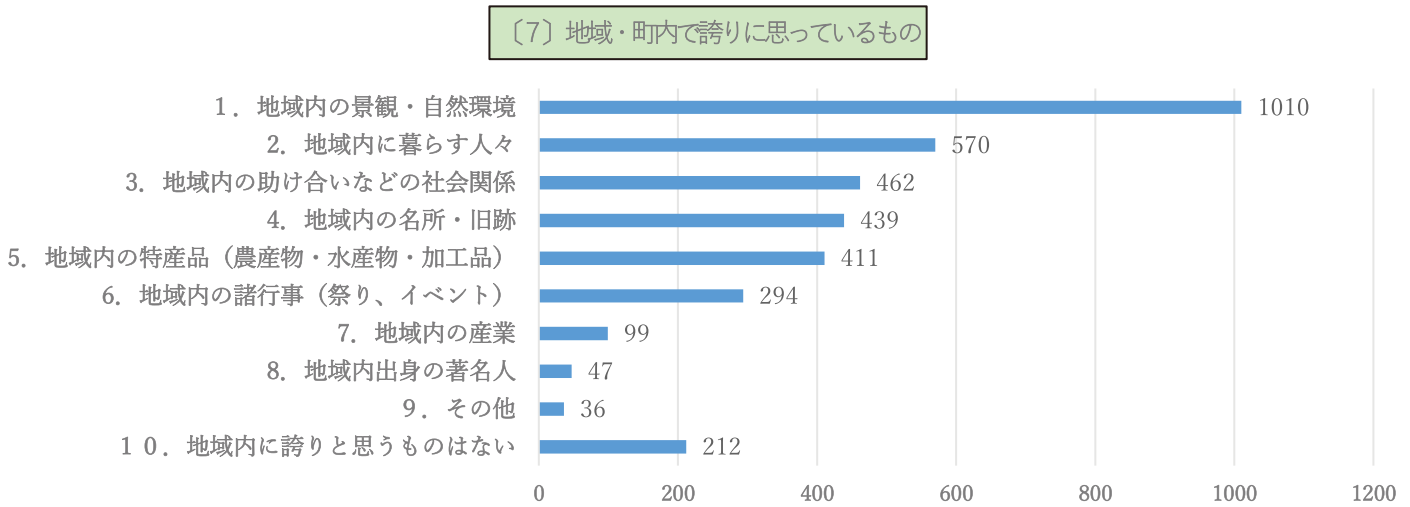
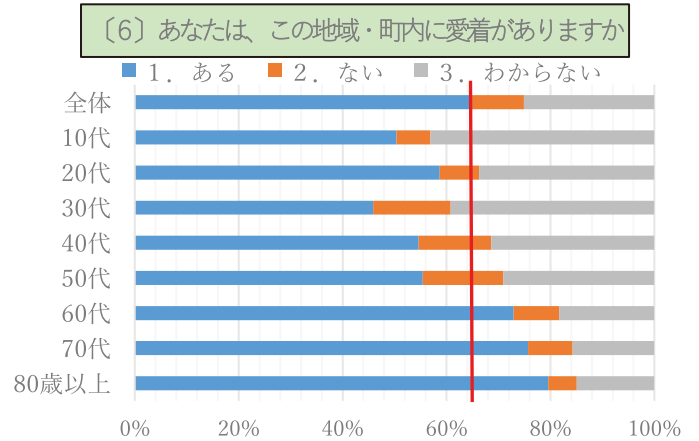
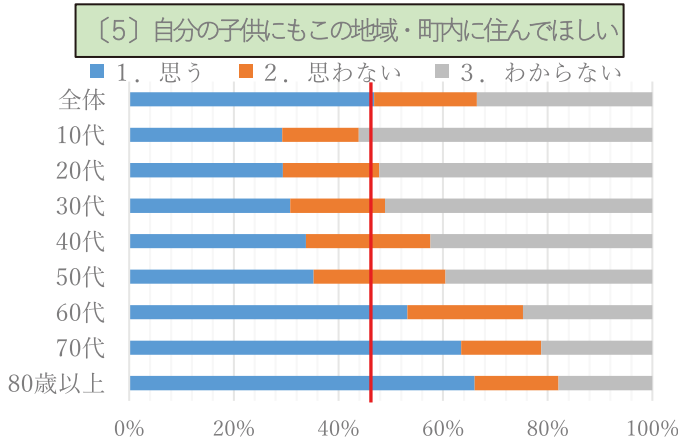
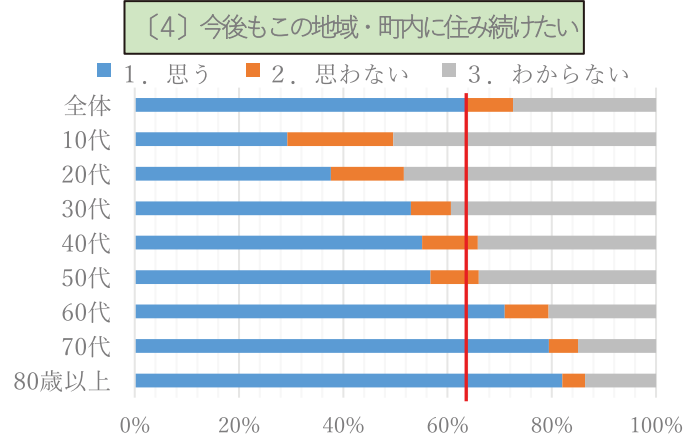
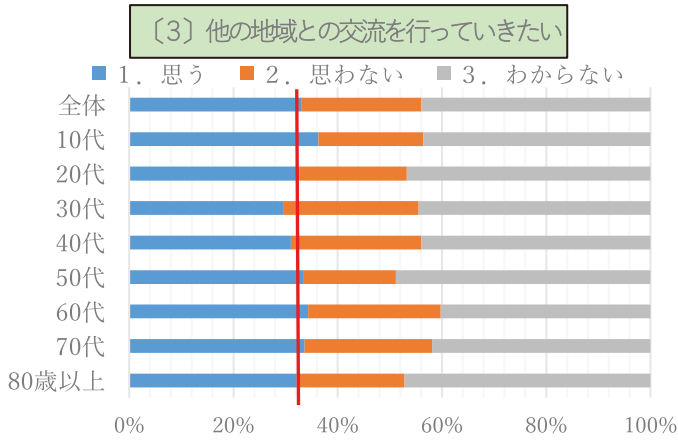
【9】地域のこれから、地域への思い

(1) 運営に女性や若者の声をもっと反映させるべき



(2) 他の地域から新たな定住者を受け入れるべき





〔1〕運営に女性や若者の声をもっと反映させるべき

全体の56%が、「思う」との回答でした。注目すべきは、当該の若い世代である40代以下の数値が全体平均より低く、50代以上の数値が高いという点です。これは、若い世代が「活動にかかわっていないので特に思わない、わからない」ということ、逆に年配の世代には「もっと積極的にかかわってほしい」との思いもあるようです。いずれにせよ、地域の活性化のためには、女性や若者の声をもっと反映させるためには、反映させるための「場・機会の設定・充実」が大切です。

〔2〕他の地域から新たな定住者を受け入れるべき

同じく全体の56%が「思う」の回答で、世代間における顕著な差は見られません。地域内における少子高齢化に対する考えは同じであり、「新たな定住者の受け入れ」はその有効な解決手段としてとらえられているようです。

〔3〕他の地域と交流を行っていきたい

各世代とも、ほぼ3割が「思う」の回答でした。しかし、全世代で「わからない」が4割を超えており、質問そのものに具体性が乏しかったのではと反省しています

〔4〕今後もこの地域・町内に住みたい 〔5〕自分の子供にもこの地域・町内に住んでほしい

それぞれの全体平均を見てみると、自分自身がこの地域・町内に住み続けることに関して、住みたいと「思う」が64%、「思わない」(8%)と「8:1」の比率になっていますが、自分の子供に住んでほしいとなると「思う」が46%、「思わない」が20%で、比率は「2.3:1」と大きな差があることがわかります。年代別にみると、特に子育て現役や孫ができる世代では、「住みたいと思う」が30代、40代、50代で55%前後、60代で71%に対して、「住んでほしいと思う」は、30代、40代、50代で33%前後、60代では53%と約20ポイントの差があります。また、「住んでほしいと思わない」は、「住みたいと思わない」の2~3倍の数値を示しています。

進学、就職、結婚などによって、子供たちがそれぞれ暮らす「まち」も定まってきますが、次世代に住んでほしい、次世代が住みたいと思えるような「まちづくり」は、地区内の人口流出、少子高齢化対策の大きな柱となるようです。

〔6〕あなたは、この地域に愛着がありますか

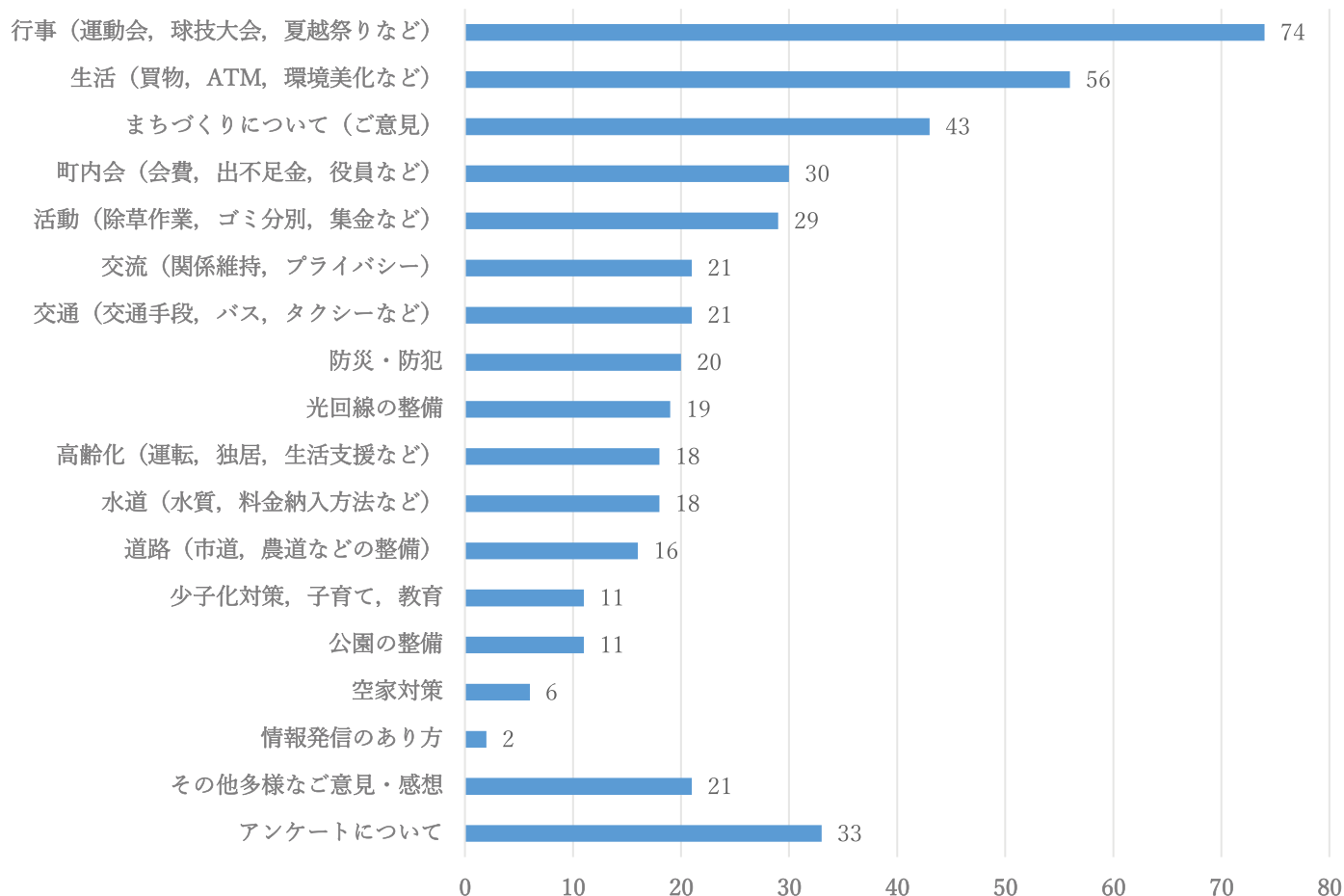
全体では、「愛着がある」は64%という数値を示しており、3人中2人は「愛着がある」と回答しています。30代で「ある」が50%を切っていること、40代、50代で「ない」が15%あることが気にはなりますが、全体で見ると「愛着がない」は10%程度で、まずまずの状況かと思えます。

〔7〕地域・町内で誇りに思っているもの

「地域内の景観・自然環境」との回答が圧倒的に多く、「地域に暮らす人々」、「地域内の助け合いなどの社会関係」、「地域内の名所・旧跡」、「地域内の特産品」と続きます。これらはすべて有効な地域資源であり、これらの活用が、地域の活性化とまちづくりの基盤となります。

【10】自由記述（意見・要望・感想）

《全449件を18項目に分類》



※ ご意見やご要望、課題等への対応・取組につきましては、回覧等で皆様に随時お伝えいたします。

【アンケート結果から見えてくる課題】

(1) 高齢化社会への備え・対応について

- ・ 60歳以上が50%を占める地区
- ・ 農業従事者数は大幅な減少（20年後）
- ・ 農地、山林の維持管理（不安・困りごと 2位）
- ・ 80歳を超えると車の運転の割合が減少
- ・ 移動支援活動、生活支援活動（重要度：高、満足度：低）

(2) 少子化、子育て、教育対策について

- ・ 中学生以上の10代は6%（0歳児を含む20歳未満は推定15%以下）
- ・ 40代以下の不安、困りごと（2位：学習面での競争が少ない 3位：遊び相手や遊び場の減少）
- ・ 子育てなどの相談ができる場や人（重要度：高、満足度：低）
- ・ 新たな定住者を受け入れるべき56%

(3) 地区・町内会で実施される行事・活動の検証と改善について

- ・ 「仕事・行事が多く忙しすぎる」「近所付き合いをわずらわしく思うことがある」合計の割合
30代32% 40代45% 50代35% 60代34%
- ・ 参加、割当に対する負担感、不平等感
地域活動への参加 全体の48%（うち 付き合いで参加29%） 40代は61%中40%

(4) 利便性の確保、インフラの整備などについて

- ・ 不安・困りごと 1位：日常の買い物ができる商店 7位：預貯金が引き出せる金融店舗
8位：買い物、通院などの移動、交通手段
- ・ 自由記述（意見・要望） 光回線、水道、生活道路、公園など

(5) 防犯、防火、防災活動の維持・改善について

- ・ 災害への備えや避難に関すること（不安、困りごと 5位）
- ・ 子どもの安全を支える活動、見回りなどの防犯・交通安全活動、防火・救命などの消防活動、避難訓練・連絡体制などの防災活動（重要度：高、満足度：高）

【宮地区のまちづくりの基本方針】

- ◎ 共に助け合い、絆を大切にする共助社会を目指した まちづくり
- ◎ 安心して住み続けられる安全で快適な まちづくり
- ◎ 自分の子供にもこの地域・町内に住んでほしいと言える まちづくり
- ◎ 地域資源を最大限に活用した特色ある まちづくり

【今後の取組・スケジュール】

【短期的な取組】 関係団体内である程度対応できるもの

- (1) 自治協議会と各関係団体との協議 連合町内会、民生児童委員協議会、体育協会、簡易水道組合等
- (2) 各関係団体による実態調査・検証と対応策及び解決策についての検討・協議
- (3) 諸課題を改善するための具体的方策の提示及び実施（2年以内を目標とする）

【中・長期的な取組】 行政の財政支援、公的機関・民間サービス機関の支援を要するもの

- (1) 自治協議会を中心とする実態調査、実施計画の策定、関係機関への協力依頼、支援体制の構築
- (2) 諸課題を改善するための具体的方策の提示及び段階的实施
- (3) 進捗状況、目標達成状況の検証（5年スパンで）